

親が率先して誰に対しても挨拶するように心がける。挨拶はお互いの存在を認め合うことに繋がり、会話のきっかけとなる。

「いただきます」「ごちそうさま」をいうことを定着させることで、食べ物やそれを作った人への感謝の気持ちが芽生える。

「ありがとう」という言葉をちゃんと口に出し、自分の感謝の気持ちを相手に伝える。

子どもに要求するのではなく、自分自身がまずかわるということを心がける。

決まった時間に起きるなど基本的な生活習慣を身につけることから精神力を鍛える。

相手の立場に立って考える。

親自身の事や住んでいる地域の事を話すことで、親の生き方を理解してもらう。

7. 考 察

誰もが思いを発言し、メンバーに受けとめられる
→自分の思いの整理 ・ 共感



それぞれに「気づき」がある → 小さくても
日常生活の行動変容につながる
共感 → 人との関係性を大事にする
以上の要素を取り入れたプログラムを開発する
必要性が示唆された。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
福島富士子	地域における妊産婦支援の取り組み	中村正雄・安達知子	母と子の健康教育	ライフ・サイエンス・センター	神奈川県	2005	P193-196

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
福島富士子	いまなぜ、継続支援が必要なのか	ペリネイタルケア	304号	10-13	2005
谷合真紀	地域における妊娠から産褥期の母親支援に関する検討	保健医療科学	第53巻4号	p. 59-70	2004